

第 10 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和 8 年 5 月 11 日（月）

17 時 30 分～19 時

会場：千曲市役所 301 会議室 A および B

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 自己紹介

4 会議事項

(1) 「第 9 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」まとめ

(2) 校地検討会議報告

(3) 長野千曲総合技術新校 学びのイメージ 意見交換

5 その他

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

第10回長野千曲総合技術新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	座長○ 新規○	氏名	所属等	役職等
1	自治体	○	川上 忍	長野市	副市長
2			丸山 陽一	長野市	教育長
3			小川 修一	千曲市	市長
4		○	蟹澤 友司	千曲市	教育長
5			塚田 常昭	坂城町	教育長
6	産業界	○	近藤 和紀	J Aグリーン長野 総合企画部	次長兼総務企画課長
7			福田 享士	株式会社システックス	常務取締役
8			矢島 隆生	フレックスジャパン株式会社	代表取締役社長
9			滝沢 秀治	滝沢食品株式会社	代表取締役社長
10	学識経験者		森下 孟	信州大学学術研究院教育系	准教授
11		○	藤本 光世	元県立高等学校長	座長
12	地域	○	百瀬 秀樹	長野地域振興局	局長
13			海野 忠一	篠ノ井地区住民自治協議会	会長
14			香山 篤美	長野商工会議所松代支部	代表
15			赤地 憲一	千曲市	
16	同窓会		越 正至	更級農業高校同窓会	会長
17			細川 隆男	松代高校同窓会	会長
18			赤塩 曜子	屋代南高校同窓会	会長
19	P T A	○	宮寄 歩	更級農業高校 P T A	会長
20			池田 悌智	松代高校 P T A	会長
21			青木 健司	屋代南高校 P T A	会長
22		○	栗林 宏至	長野市 P T A 連合会	副会長
23		○	梶浦麻衣子	更埴 P T A 連合会	代表
24	小中学校等 関係者	○	祢津 賢司	長野上水内校長会 広徳中学校	校長
25		○	竹腰 益臣	更埴校長会 埴生中学校	校長
26		○	大石 卓司	稲荷山支援学校	校長
27	再編対象校	○	花岡 拓海	更級農業高校	農業クラブ会長
28		○	垂澤 和憲	更級農業高校	校長
29		○	高木 二千翔	更級農業高校	教諭
30		○	畔上 真緒	松代高校	商業科代表
31			阿部 栄智	松代高校	校長
32			中澤 涼子	松代高校	教諭
33		○	塚田 幸菜	屋代南高校	ライフデザイン科代表
34			竹内 宏枝	屋代南高校	校長
35			星野 裕之	屋代南高校	教諭

【事務局】

学校名	氏名		
更級農業高校	丸山 暢之 (教頭)	○高木 二千翔	北澤 晃
松代高校	山口 雅子 (教頭)	○宮林 正樹	中澤 涼子
屋代南高校	○犬飼 健一 (教頭)	星野 裕之	土屋友紀子
県教育委員会	高校教育課 高校再編推進室		
	○田中 聡	主幹指導主事	
	○竹前 操	主任指導主事	
	宮嶋 直美	主任指導主事	
	米澤 和真	主事	
	学びの改革支援課 高校教育指導係		
	○山崎 和也	指導主事	

第9回 長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和7年12月16日(火) 18時～19時30分				
場所	篠ノ井交流センター 多目的ホール				
出席 (敬称略 ◎座長)	西澤 雅樹	丸山 陽一	小川 修一	小松 信美	
	塚田 常昭	市川 伸一	海野 忠一	山田 哲章	
	矢島 隆生	滝沢 秀治	森下 孟	◎藤本 光世	
	坪井 俊文	赤塩 曜子	細川 隆男	赤塩 博貴	
	香山 篤美	赤地 憲一	越 正至	宮坂 博貴	
	宮原 純平	(代理出席 梶浦麻衣子)	宮尾 昭広	宮坂 博貴	
	武藤 稜	徳武 晃	岡澤 愛実	阿部 栄智	
	中澤 涼子	渋沢 葉奈	(以上31名)		
	竹内 宏枝	星野 裕之			
欠席 (敬称略)	福田 享士	池田 悌智	青木 健司	傍聴者	
	倉島さつき	(以上4名)			
	18名(オンライン参加1名) 報道関係5社				
事務局	更 級 農 業 高 校	2名	丸山教頭	徳武教諭	
	松 代 高 校	2名	中澤教諭	坂本教諭	
	屋 代 南 高 校	3名	櫻田教頭	星野教諭	土屋教諭
	高校再編推進室	4名	原(多) 主幹指導主事	宮嶋主任指導主事	
			米澤主事	原(周) 主任指導主事	
	学びの改革支援課	1名	宮沢指導主事		
当日資料	第9回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会 資料				

会議事項

- (1) 「第8回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」まとめ
- (2) 校地検討会議報告
- (3) 再編実施基本計画 意見交換 設置学科について

主な内容(意見・質問等 →県教育委員会)

○会議事項

- (1) 第8回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

【事務局より説明 質問・意見なし】

- (2) 校地検討会議報告

【部会長より報告 質問・意見なし】

- (3) 再編実施基本計画 意見交換 設置学科について 【事務局より説明】

- ・工業科設置に関する意見は過去にもあったことを踏まえ、近隣校の工業科設置状況(須坂創成高校、長野工業高校、上田千曲高校など)や総合学科設置校での工業関連科目の選択状況を紹介。
- ・旧第4通学区から他通学区への流出が課題である一方、通学利便性は高いこと、北信・東信地区全体の工業教育を考慮すると県教育委員会としては現状の配置がよいと考える。
- ・長野千曲総合技術新校ではDX(デジタルトランスフォーメーション)に係る学びは全生徒が身につけるべきものと位置づけたい。ツールとしてのICT活用や情報リテラシー、ネットワーク、データ活用、統計分析、プログラミング、AIの活用などの学びを教育の方法として活用することにより、各科の専門性を高め、深めることが期待できる。
- ・地域企業と連携したデュアルシステムや「共学共創コンソーシアム」を構築し、学校と地域が共に学び、共に地域を創る仕組みを目指す。
- ・ICTを活用し、専門性を高め、他科との融合した学びを通して感性を磨き、自らの可能性を広げていく学校を構想している。
- ・自治体、産業界をはじめとした地域全体で、柔軟な発想で新しい価値を創造し、挑戦を通じて成長できる生徒を育てていきたい。
- ・設置学科は農業科・商業科・家庭科の3科として提案する。

【質問・意見】

- ・ 3 学科の学びの内容は今後、検討をするのか。
- 設置学科決定後に学びのイメージを深めていく。農業科・商業科・家庭科がどのような学びをおこなって、どのように魅力ある新校を作っていくのかという議論を進めていきたい。
- ・ 県教育委員会として工業科を新たに設置せず、現状配置でよいと考えた背景について説明いただきたい。
- 千曲市や坂城町には製造業の企業が多いが、工業科に限らず、更級農業高校、松代高校商業科、屋代南高校ライフデザイン科から就職する生徒も少なくない状況であり、地域産業の担い手を育成できると考えている。
- ・ 土木系技術者不足が全県的に不足しているが、県教育委員会としてはどのように考えるのか。
- 近隣で土木科が設置されているのは長野工業高校のみだが、農業科でも測量等を学ぶことは可能である。県教育委員会としては、自分で前へ進んでいける生徒、地元に戻って、地域の産業に貢献できる生徒が育つように、地域社会、企業、自治体と共に考えていきたい。
- ・ 生徒たちが様々な職業に就くとしたら、専門科の意義はどのように考えるのか。普通科との違いは何か。
- ・ 工業科を設置した場合の教員配置や予算面の検討を行ったか。
- ・ 旧第4通学区から他の通学区への流出は、家庭の交通費負担が増える。新校を作るにあたっては工業科を設置することによって他校との違いを生み出せるのではないか。
- 第4通学区から通える範囲に工業科を置く県立高校が複数あり、長野工業高校は学校規模が大きく、ほとんどの学科がそろっている。また、土木関係は近隣の総合学科高校でも学ぶことができるため、長野千曲総合技術新校では、農業科・商業科・家庭科の設置という提案をさせていただいた。工業科を設置する場合、どのような学びが必要なのか、ご意見をいただきたい。
- ・ 工業科は過去の懇話会で多くの意見が出ており、柔軟な発想で、新しい価値を創造するという学校方針に沿って、農業科に農業工学や農機具技術を取り入れることはできないか。
- ・ 土木科という名称にこだわらず関連分野を学びに含めるべきではないか。
- ・ 工業科を新設することよりも、農業科・商業科・家庭科の学びを広げるべきである。また、専門高校は施設設備を整える必要があるため、集中配置が望ましく、学科が複数校に分散するのには懸念がある。
- ・ 長野千曲総合技術新校に工業科設置となれば、近隣の充実した学びのできる工業科設置校は、今後、定員の見直しが必要になってくると考えられる。そのようなことも考えた上で議論を進めるべきではないか。
- ・ 普通科が新校に設置されない場合、松代高校、屋代南高校の普通科は存続すると千曲市民は認識している。募集定員減少による流出拡大が懸念されるため、普通科定員を減らさないよう今後の懇話会で検討を求めたい。
- 普通科設置については次回に県としての考えを示したい。
- ・ 農業科ではスマート農業やドローン活用、商業科ではAIによるマーケティング分析、家庭科ではデジタル技術を活用したデザインや販売連携など、DXを取り入れた学びに魅力を感じる。
- ・ AIの活用は人間の負担が減る一方で、高校で学んでいく上では、自分自身の知識や技能を伸ばしていく必要がある。AIに頼りすぎないように学んでいきたい。
- ・ 工業科を独立して設置するのではなく、農業科・商業科・家庭科に工業的要素を融合させ、教育のDXに対応した学びを提供することが重要。学科間の分断ではなく、協働や融合を重視することで、新しい発想や生産性向上につながる。どの分野に進んでも情報機器や工学的知識は不可欠であり、学びの中に自然に取り入れる仕組みが必要だと考える。

◎座長まとめ

- ・ 農業科・商業科・家庭科の3学科で新校を構築し、いただいた意見を踏まえて、学びのイメージを具体化していく。今後は事務局で学びのイメージの検討を進めてもらいたい。

学びのイメージ 策定スケジュール

新しい学校の中身

- 第7回:情報教育
- 第8回:情報教育
- 第9回:設置学科の決定

新しい学校の形

第10回:学びのイメージ・目指す自分像
(事務局案)

第11回~

- 学びのイメージ完成
- 再編実施基本計画の策定準備
- 校舎、募集開始(開校時)
- 学級数・学級数

目指す自分像

目指す学校像

育てたい生徒像

共通理解

- 第1回:懇話会の趣旨説明
- 第2回:総合技術高校
3校の学校・学び
- 第3回:全国の先行事例
- 第4回:これまでの懇話会

- 第5回:学校(学科)間連携
生徒像・学校像・ワクワクする学校
- 第6回:生徒像・学校像とその手立て
- 第7回:生徒像・学校像(事務局原々案)
- 第8回:生徒像・学校像(事務局原案)



第10回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会資料

未来を創る学びのカタチ：長野千曲総合技術新校のビジョン

目指す自分像

育てたい生徒像

学校の特徴

自分の「問い」を立て、主体的に学ぶ探究者
 自らの興味・関心を起点に課題解決に取り組み、変化の激しい社会を生き抜く力を育みます。

深い専門知識を持つ、地域産業の担い手
 農業科・商業科・工業科・ライフデザイン科で社会に通用する実践的な技術を身につけます。

地域と共創し、新たな価値を生み出すイノベーター
 地域に誇りを持ち、持続可能な社会を創る一員として未来の発展に貢献します。

学科の壁を越える、分野横断的な学び
 他学科の科目も選択でき、専門分野を融合させて多角的な視点と発想力を養います。

地域社会全体がキャンパス
 企業や大学との連携、インターンシップ等を通じ、社会の最前線で実践的に学びます。

生徒が学びをデザインする学習環境
 一斉学習から脱却し、デジタル技術を活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進します。

学びのイメージ①

農業 × 商業 × 家庭科

深める・つながる・ひろがる学びで、

未来をデザイン!



学びのイメージ②(事務局案)

目指す自分像



- 自らを律し、挑戦をいとわず、柔軟な発想で、新しい価値を創造し続ける「わたし」



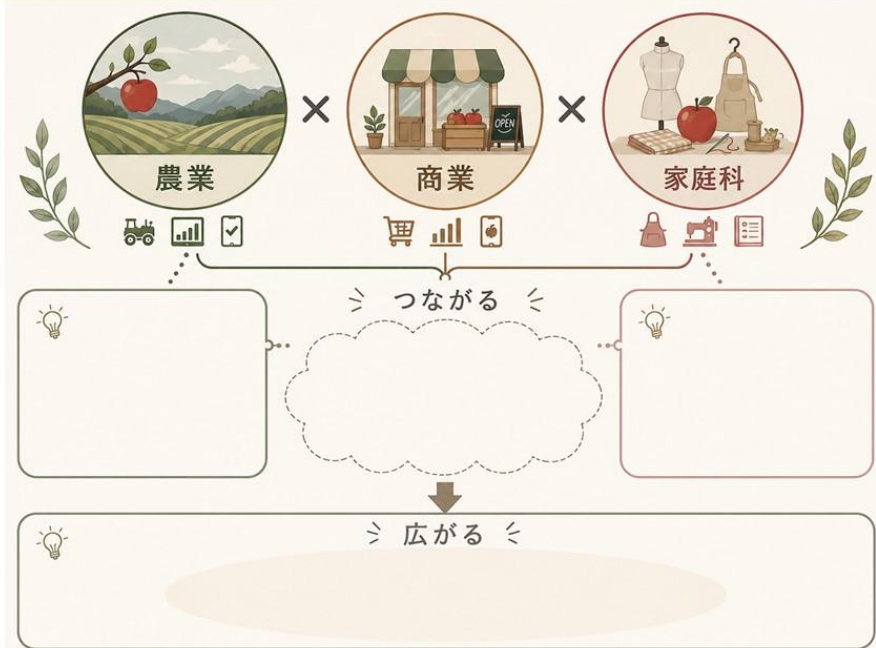
- 自他を尊び、多様な価値観を受け入れ、個人や社会のウェルビーイングを追求する「わたし」



- 地域と産業に愛着と誇りをもち、グローバルな視点をもって社会に貢献できる「わたし」



「つながる」「ひろがる」学び



学びのイメージ①

農業 × 商業 × 家庭科

深める・つながる・ひろがる学びで、

未来をデザイン!

それぞれの
学科の学びを



学びを実践する
地域と

